

音鑑・夏の勉強会 2019

「よりよい授業を求めて」

8月17日～18日・19日

教員免許状更新講習（選択領域12＋6時間）認定

毎年恒例の夏の勉強会です。今年は1日目～2日目にグループ研修、3日目に音楽講座を行いました。

1～2日目は、授業づくりの講義とグループ研修が主な研修内容です。1日目の午前中の講義から始まり、午後から2日目にかけてはグループ毎に研修をしました。

講義では、新学習指導要領の内容について、改訂

のポイントや、指導と評価のことについて確認しました。グループ研修では、楽曲分析を中心とした教材の検討をしたり、来年度から順次実施される、新学習指導要領に基づいた指導の組み立て方（指導計画・評価計画や指導の展開）について講師の先生とグループの先生方で意見を交わしたりと、考えを深める時間になりました。

1日目・2日目（8月17日・18日）

研修内容：●講義「鑑賞領域の指導と評価について ～新学習指導要領の内容～」

●グループ研修「鑑賞領域の指導と評価」の実際

講師：藤沢 章彦（東京女子体育大学講師、当財団理事）／館 雅之（神奈川県横浜市立つづきの丘小学校校長）

梅宮 真里（福島県福島市立吉井田小学校教諭）／河崎 秋彦（茨城県取手市立取手東小学校教諭）

安部 文江（長野県小諸市立小諸東中学校教諭）／長久久保 希史子（青森県八戸市立北稜中学校教頭）



▲「鑑賞の指導を考える～鑑賞指導における『聴くこと』と『見る』こと」
たくさんの媒体があるが、授業の中で効果的な方法で教材を提供することが大切であるとお話しされました。



「神田祭の音楽と「ねぶた祭の音楽」それぞれ、〔共通事項〕を窓口に楽曲分析をします。音楽を形づくっている要素を「授業で取り扱いたい」「扱えたら扱う」「扱う可能性は低いが考えられる」に分け、整理しています。▼



▲講義：新学習指導要領を、「目標」「内容」「鑑賞の指導内容」「〔共通事項〕の指導内容」をポイントに確認しました。評価については、最新の情報を参照しながら、参加された先生方と共有しました。

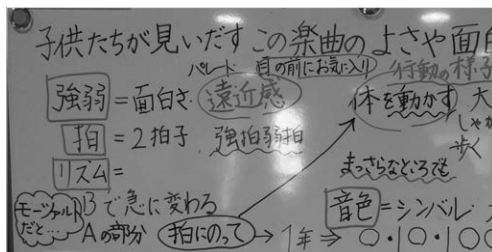


◀ 小・中合同グループ中心教材：「神田祭の音楽」「ねぶた祭の音楽」





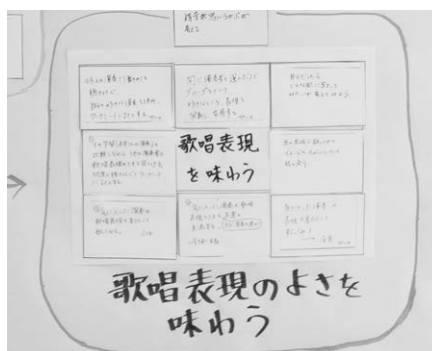
▲Aグループ 中心教材：「トルコ行進曲」



▲「子どもたちが見出す楽曲のよさや面白さは何なのか？」をグループで話し合いました。



▲Bグループ 中心教材：「ちいさい秋みつけた」



◀Bグループでは、学習内容に対して考えられる学習活動を考え、整理しました。



◀Dグループ 中心教材：「魔王」

各自が作成した事例を、グループ内で共有しました。それぞれの先生方の報告を聞くことで、新たな視点が生まれるなど、考えを深めることができましたのではないのでしょうか。▶



◀研修報告会では受講したグループ以外の研修内容も共有しました。

「神田祭の音楽」の唱歌体験もしました。▶



【アンケートより】

- ・ 2日間の研修の中で、先生方と指導案を検討、分析し学びのある2日間になりました。音楽科は学校に1人なので、今回の研修で交流ができてよかったです。
- ・ 題材構成の手順、子どもの目線になって学習内容を検討するといった大切なことを、同じグループの先生方と話し合いながら、考えを深めたり、広げたりして学ぶことができました。
- ・ 全国の先生方と手立てについて話すことができ、大変勉強になりました。

3日目の音楽講座では、能について学びました。

午前中の講義では、能の歴史、演目、狂言との関係、能面・装束・舞台、能の音楽についてお話されました。「嫉妬のあまり骨と皮になったのが般若」など、思わず「へえ～」と声が漏れてしまうような

お話しもきくことができました。

午後のワークショップでは謡と鼓の体験、能の基本動作の体験をしました。『羽衣』より「東遊びの数々に～」の部分の小鼓と謡の体験をし、最後は小鼓と唱歌で合わせることもできました。

3日目 (8月19日)

研修内容：●音楽講座 講義「能について」
能のワークショップ

講師：藤沢 章彦 (東京女子体育大学講師、当財団理事)

小早川 修 (シテ方観世流能楽師) / 曾和 伊喜夫 (小鼓方幸流)



▲貴重な能面や楽器を見せてもらいました。

▼扇子を持って基本的な動きをやってみます。外からは見えない、体の内側を意識して動かないと、能の動きにならないことがわかりました。



小鼓の「チ」「ポ」「ブ」3つの音の打ち方を教えてもらいましたが、なかなか思ったような音色は出せません。▼



▲参加された先生の感想を紹介します。「見た目は簡単そうなのになかなかよい音が出ず、持つ手も疲れてきて、とても難しい奥深いものだということがわかった。」

【アンケートより】

- ・漠然と聴いていてもよくわからなかったことが謡や小鼓、仕舞を体験したことで能の音楽のしくみを理解して鑑賞することができ、最初と聴き方が全く違いました。
- ・地元でちょうど羽衣の合奏(演奏)の練習をしているので大変勉強になりました。能については全くといってよいほど学んでこなかったのが、これから教材として取り上げられるよう、引き続き勉強していきたいと思えます。
- ・能の音楽を授業で取り入れたことはなかったのですが、楽譜の読み方がわかったので実践してみたいと思った。